

第3章 家庭で大切にしたいこと

■ 読書を介したコミュニケーション

成長するにつれて読書離れが進む傾向

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きていくための力を身につけるために必要です。

しかし、中学生になると本を読まない割合は高くなります。要因として、子どもの生活環境の変化が考えられます。

1か月間に1冊も本を読まなかった子どもの割合



(全国学校図書館協議会 第69回学校読書調査 令和6年)



毎月第1日曜日は「ファミリー読書の日」

子どもは中学生になると、大人に近い視点をもつようになります。だからこそ、子どもと同じ本を読んだり、感想や作者について語り合ったりすることは、子どもとのコミュニケーションを図ることにつながります。

神奈川県では毎月第1日曜日を「ファミリー読書の日」としています。ぜひ、読書を通して家族のコミュニケーションを深め、保護者自身も楽しみながら読書をする時間を大切にしてください。



「かながわ 子どものためのブックリスト」

中学生等が推薦した「友だちにすすめたい好きな本」、保護者が中学生等に薦めたい「子どもに読んでほしい本」などを掲載したブックリストです。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/h29booklist.html>

■ 家庭における5つの心掛け

● 生活のリズムをつくる

中学生になると、部活動や勉強などで忙しくなって、生活のリズムを崩してしまうことがあります。

子どもが生活のリズムをつくるためには、保護者のサポートが重要です。

● 子どもをトラブルから守る

スマートフォンなどが普及し、いつでも連絡が取れるという安心感により、かえって夜間外出に対する危険性を感じにくくなっています。普段から子どもとコミュニケーションを密にとるなど、子どもを危険やトラブルから守る取組が求められます。



● 子どもの話を聴く

話し合う機会をもち、子どもの話を聴くことが大切です。また、会話で子どもの思いや悩みをつかみ、状況に応じたアドバイスや親の考えを伝えることも大切です。

● 感動を共有する

学校行事やPTA活動等に参加して、子どもと一緒に感動を共有することで、子どもや中学校への理解が深まり、お互いの信頼関係を築くことができます。また、子どもが夢に向かって歩んでいくことを応援することも大切です。

● 「ホッ」とできる居場所にする

家庭は、中学校から帰った子どもが「ホッ」とできる居場所です。子どもの反抗的な言動に、動揺したり押し返したりせず、子どもの心の奥に秘められた気持ちをくみ取り、温かく見守る心のゆとりをもつことが大切です。